

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105235		
法人名	(株)アイリーフ		
事業所名	アイリーフ当新田 (ユニット共通)		
所在地	岡山市南区当新田364-5		
自己評価作成日	平成 26 年 2 月 22 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3370105235-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成 26年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の「できないことを支援する」ということよりも「できることを支援する」ことに比重を傾け、「その人らしい暮らし」を支援していくため、『心身介護』を心掛けています。
また、今まで地域との繋がりを大切に、徐々に信頼関係を築いてきました。地域の方々の協力もあり、今では地域の一員となっています。これからは感謝の気持ちを込め、私たちの持っている知識や技術、情報等を地域に還元していきたいと思っており、積極的に行事に参加したり、介護についての講座を開いたりしています。そして地域の方が気軽に立ち寄れる施設となるよう、職員みんなで取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

十周年の節目を越えたこのホームは、開設以来「地域に根差したホーム」を理念に掲げ、色々なチャレンジを重ねてきた。そして今日、一日の訪問だけでもその成果を間近に確認する事ができた。朝、近所の人が手を貸してくれている菜園を見ていると、通りがかりの近所の人が声を掛けてくれた。午後の突然のお客さんは3人の近所の子供達。思いついて手作りのプレゼントとお手紙持参の嬉しい訪問だった。今日の午後のスケジュールは、地域の住民に呼びかけての介護教室で、利用者の参加もあった。又、昨年度の課題であった「家族とのかかわり」についても前向きな取り組みが継続している。ホームの玄関に見られる「改善コンクール(複数数の法人で長年取組)」の多くの表彰状もこれらを物語っている。いただいた賞金は揃って食べに行く蟹に化けると言う。楽しい事は皆で笑い合い、困った事は額を寄せて相談し合う。まるで大家族が集まったような家である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はホールに掲示されており、また理念についての内部勉強会を行い、職員全員で共有し、実践につなげられるように心掛けている	母体法人の理念以外に、ホーム開設時全職員で話し合って作成したホーム独自の理念も。理念は何かあればそこに立ち返ってあるべき姿を考える指標として大切にしている、社長自ら「理念の勉強会」を実施して周知徹底を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事(公園の掃除・祭りに屋台を出店等)に参加し、交流を図っている 定期的に町内のスーパーや郵便局に作品展示をしている	ホーム訪問時、入り口に掲示している“アイリーフかわら版”(地域の人に向けてのお知らせ)に見入っていると「おはよう」近所の人が声をかけてくれる。「来たいから来たの」子供達が遊びに来る。ホームの畑で野菜作りを指南してくれる人もいる。自然な地域とのつき合いができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	もっと認知症や事業所について知ってもらうために、地域の方やご家族に向けて、介護の勉強会を開いたり、介護相談を随時受け付けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者拡大を目標に、興味がありそうなテーマの勉強会を開いている 事業所の現状や取り組みを報告し、家族の意見や思いを伺い、サービス向上に努めている	“終活セミナー・エンディングノート”“認知症について”今年度は運営推進会議の時に役立ちそうな講座を企画し、ちらしや町内回覧板で、近隣住民に参加を呼びかけた。時にはホームの行事と同時開催する等工夫して、有意義な会を開催できている。	このホーム独自の運営推進会議への取り組みをしていて、ユニークで興味深い実践と思うが、参加者の意見や情報等をホームのケアや運営につなぐ工夫をさらに期待している。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的にホームの現状を報告に行ったり、地域運営推進会議に参加頂いたり、常に協力関係を築けるよう取り組んでいる。	地域包括支援センター職員や、社会福祉協議会南区事務所担当者等は、ホームの運営推進会議に出席し実情をよく理解している。時には利用者の紹介もある等、協力体制が構築できている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行ったり、日々のケアの見直しを行い、身体拘束しないケアに努めている	職員間で安全対策委員会を設け、身体拘束も含めたリスクマネジメントの把握に努め、事故を隠す事なく、正確に報告して分析を行い、安全対策体制を確立させようとしている。日々のケアの中で身体拘束につながりそうな事は、その都度話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的なことだけではなく、言葉による虐待はないか、カンファレンス等で話し合い、防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を活用されている方が数名いるが、いまいち理解出来ていないので、今後制度についての勉強会を行いたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、家族に事業所のケアに関する考え方や取り組み、退居を含む対応可能な範囲や利用料金、リスク、重度化、看取りについて丁寧に説明し、同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会等で意見を言いやすい雰囲気づくりに努めたり、しっかりコミュニケーションをとり、反映できるように努めている	毎月の個別の便りだけでなく、運営推進会議議事録やホームの通信を家族に送付して情報提供している。今年度は家族参加の衣替えや大掃除を企画し、何気ない会話から本音が聞けるよう働きかけた。家族会も年2回開催している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員とコミュニケーションを図りながら、要望や意見を聞くように努めている 必要に応じ、個別に時間を作るようにしている	母体法人は現場を尊重した良心的な運営を行っている。ほとんどの職員が正社員のシステムにしているため、職員達はやりがいを持って働いている。職員間のチームワークもよく明るく活気があった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回チャレンジ目標を決め、達成できるよう努力している また2か月ごとに個人目標を掲げ、職員を皆で評価・決定し、MVP賞を与え、モチベーションUPを図っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力に合わせ、外部研修に参加できるようにしている また定期的に内部勉強会を行い、スキルアップに繋げている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2か月に1回、関連の事業所や他事業所との勉強会を行っている また他グループホームとの交流を図り、情報交換やサービスの質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族から情報収集を行い、状況把握に努めている 信頼関係が築けるよう要望等をしっかり傾聴するように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、家族の思いや要望等をしっかり傾聴するように努めている 面会時に意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人からしっかり情報収集し、今何が必要なのか見極められるように努めている また新しい環境に馴染んでもらえるように環境づくりにも配慮している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できること・できないことを見極め、役割を持ってもらい、お互いに支え合える関係づくりに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りや面会時に報告・相談し、情報を共有している また家族の役割(衣替えや大掃除等)を作り、家族と職員が共に支えていく関係づくりに努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方に住む家族との面会に同行したり、季節のお便りを出したり、家族に協力を得て、昔ながらの知人を連れてきていただけようにし、関係が途切れないように支援している	「この人、よう気がついて優しいのよ。ここへ来て一緒にテーブルになったら、もう友達よ」仲良し同志が笑みを交わす。ホームで共に暮らす馴染み関係も生まれている。毎年県外から友人が会いに来る人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について職員で日々情報を共有し、孤立することなく利用者同士が支え合うことができる関係づくりに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、行事にボランティアとして参加して下さったりと関係が継続できるように努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人の何気ない言動等を気に留め、その人らしい生活ができるように努めている また家族の思いや意向も尊重している	「家に帰りたい」本人の言葉を聞き逃さずに職員がキャッチ。「まだそんな事言ってますか？」家族に伝えると、家族が段取りして家に連れて帰った。利用者のつぶやきを職員が拾い上げ、皆で共有する体制ができている。	利用者の、ふともらした思いや言葉・トピックスを、忘れないうちに拾い集めようとしている取り組みは、是非継続し効果的に活用して欲しい。中には思いもかけないような波及効果が見られる事もあると思う。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や家族からの情報をもとに、今までの生活の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できることの発見に努め、継続してできるように支援している ちょっとした変化も気につけ、1日の過ごし方や健康状態等を申し送りし伝え、介護記録や申し送りノートで共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の関わりの中で本人の言動等から望んでいることを把握し、家族には介護計画を立てるための話し合いに参加していただき、しっかり意向を聞いた上で、介護計画を作成している	ホームは利用者・家族の思いをケアプランに反映する事を今年度の目標達成計画に掲げて取り組んだ。本人のつぶやきを拾い出してプランに生かし、家族とは必ず面談して一緒にケアプランを考えるよう働きかけ成果があった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りやカンファレンスにて職員間の情報共有に努めている また個々の介護サービス計画実施評価を記録に残し、必要に応じてケアの見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に対して、柔軟に対応できるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に積極的に参加したり、安全パトロールを行っている 利用者の作品を地域のスーパーや郵便局に展示することは自信に繋がっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の説明を行い、納得を得ている 家族の希望があれば他病院の受診も対応している	内科と外科の協力医を複数確保できている。本人の状態はホームが一番よく判っている。家族と病院で合流する時もあるが、ホーム主体で受診支援を行っている。看護師の職員が専従で支援してくれるので安心だ。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は常に利用者の異常の早期発見に努め、異常があれば24時間体制で看護師と連絡・相談ができ、速やかに受診・往診ができる体制を整えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はできる限り面会に行き、病院との情報交換を常に行い、早期退院ができるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や看取りとなった場合に事業所ができることを説明し、その後は状態に合わせて常に家族に報告・相談し、情報を共有している チーム全体でその人らしい最期を迎えられるように支援するように努めている	家族も泊まりこんで協力しながら、今年度も3件ターミナル支援を行った。一度関わったら、最期までの思いが強く、開設して11年経過するが、今までに20人近い利用者を看取ってきた。これからも本人・家族の希望に添って、できる限りの支援をしたいと思っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会を行ったり、必要に応じてその都度看護師より説明があり、緊急時に対応できるように努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方も訓練にお誘いし、職員が迷いなく利用者を安全に避難できるように、どんな災害でも対応できるように訓練を行っている また食料等の備蓄も確保している	年2回、昼と夜を想定した訓練を実施した。火災と水害の場合に備えて、1階から2階と、2階から1階への移動を実際に行った。運営推進会議と同時開催して、地域住民との連携についても話し合った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の尊厳を守ったケアができるように職員が共通の意識を持ち、1人ひとりに合わせた対応ができるように心掛けている	「これできたらあげるから持ってお帰り」塗り絵が得意な人が声をかけてくれる。オシャレな人は、日に何度も服を着替える。「お願いします」家事が好きな人は、張り切ってお手伝いする。聴き取りにくい人は筆談で、職員とおしゃべりを楽しんでいる。それぞれの個性を存分に発揮できていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢がある声掛けや希望や思いを引き出せるような関わりを持ち、自己決定ができる場を提供している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の要望等を聞き、できるだけその方のペースに合わせ、個別ケアを行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みに応じた身だしなみや服を着てもらうように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じて、食事の準備や片づけを手伝ってもらっている 誕生日やお楽しみ食事会では、利用者の食べたいものを聞き、献立を決めている	食べ易いようお握りにする等、その人に合わせた支援で、介助の必要な人の傍には職員がついて、皆で談笑しながら食事していた。「あんたお食べよ」仲間に声かけ「ネギ残っとる」職員をチェックする人もいる。みんなで美味しく完食だった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量をチェック、月1回の体重測定を行っている 利用者の体調や病状に合わせた食事を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、必要に応じて介助を行う 歯科往診時には指導・助言を得ている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、定期的にトイレ誘導したり自尊心に配慮する声掛けを行い、できるだけトイレで排泄できるように支援している	「もしも失敗したら恥ずかしい」失禁を心配してたびたびトイレに行っていた人が、布パンツからリハビリパンツにしたら安心して落着く等、その人に合わせた支援で改善した事例もある。適切な支援ができていた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食事管理、腹部マッサージや適度な運動を取り入れ、便秘予防に努めている 必要に応じて主治医、看護師の指示の下、内服薬を使用している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間は決めているが、気持ちよく入浴できるように体調や希望をその都度確認し、無理強いすることなく臨機応変に対応している	体調に問題がなければ、本人の希望を聞きながら、できるだけ週3回は入浴して貰うよう声をかけている。入浴拒否の人も、その人なりのコツをつかんでうまく誘うよう心がけている。状況により2人介助で支援する人もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や気分によって自由に休んでもらっている 居室の温度や湿度等の環境にも気を配っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の病気を理解し、薬の目的や副作用等、看護師より説明があったり、受診ノートにて情報を共有している 配薬時、声出し確認を徹底し、確実な服薬介助ができるように努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や外出、外食、作品作り等、一人ひとりの得意なことや役割を把握し、個々に合わせた気分転換を支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に応じて、買い物や外食にはなるべく出かけられるように支援している	家族も一緒にお花見・秋の遠足等、年間行事に組み込んで全員参加で外出する時もあるが、臨機応変その時その気になった人で個別支援のお出掛けをする事もある。ホーム周辺は閑静な住宅地なので、散歩すれば近所の人とおしゃべりも楽しい。	施設入居後にも家族の役割があつて「その協力をお願いする事で、利用者のここでの心豊かな暮しにつながる」という取り組みはずばらしい事と私は思う。家族や馴染みの人との外出もこれに加えて、楽しい思い出を一つでも多く作って欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の要望や安心感に繋げるため、家族の協力・了承を得て、少額のお金を管理してもらうことがある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望に応じて利用者個人の携帯電話やホームの電話から電話したり、手紙のやり取りができるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎週利用者が活けた季節の花を飾ったり、利用者が中心となって季節に合った作品を作ったりし、季節を感じてもらえる空間を作っている	習字や塗り絵作品、貼り絵や折り紙の共同作品を掲示し、ホーム全体に親しみ易い雰囲気が漂っている。テレビを囲んで長ソファも2ヶ所あり、お気に入りの場所で寛いでいた。昔懐かしい動搖のBGMに合わせて歌をロずさみ、いい顔になる人もいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人ひとりが好きな場所で好きなように過ごせるような空間作りに努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具や馴染みの物を持ってきてもらい、心地よく過ごせるように工夫している	家族の写真や夫の描いた絵、好きなアイドルのポスターを飾る人もいる。あれこれ置くと混乱してしまう人の部屋はずっきりしている。各居室ナースコールが備え付けなので安心だ。その人らしい居室になっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者にとって分かりやすい表示や使いやすい工夫をし、混乱を軽減し、安全に生活できるように努めている		